

創立四十周年



賢く 優しく 逞しく

10月号・令和2年10月1日発行

本校URL <http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/> 武蔵村山市立第五中学校



努力の先にあるもの

校長 榎戸 千代子

朝晩冷え込んできて、めっきり秋らしくなってきました。10月1日は、昔から「衣替え」といわれ、制服のある学校や企業等では、夏服から冬服へと替える習慣があります。衣替えはもともと平安時代に中国から伝わった風習で、宮中行事として年2回衣を替えるようになりました。当初は、「更衣（こうい）」といわれましたが、女官の役職名に用いられるようになったため、「衣更え（衣替え）」とよばれるようになったといわれています。

日本人は古来より、服装というのは、自分のためだけではなく、着ている服が周りの人に与える影響を考えながら暮らしてきました。また、衣替えを通じて衣服の季節感を養ったり、手入れや整理整頓の仕方を身に付けたりしてきました。最近では地球温暖化で、10月1日が必ずしも夏から冬への変り目ではなくなってきましたが、日本人が育んできた季節感や文化は大切にしていきたいものです。ちなみに、本校では10月を冬服の移行期間とし、全員が冬服にそろうのは11月からです。身だしなみにも気を付けて生活しましょう。

ところで8月に、白血病で長期療養していた競泳の池江璃花子選手が1年7か月ぶりに大会に出場し、50メートル自由形で26秒32の好タイムを出して5位に入ったという記事を新聞で読みました。池江選手は、2016年リオデジャネイロの五輪に16歳で出場し、2018年のアジア大会では、6個の金メダルを獲得して東京五輪のメダル獲得の有力候補でした。しかし、昨年2月に白血病が判明し、約10か月の入院生活を送りました。今年3月からプールでの練習を始め、競技復帰に向けて準備してきました。7月に国立競技場で行われた東京五輪開幕前イベントに参加した彼女は、「希望が遠くに輝いているからこそ、どんなにつらくとも前を向いて頑張れる。私の場合は、もう一度プールに戻りたい。その一心でつらい治療を乗り越えることができました。」と語っています。池江選手は2024年のパリ五輪出場を目指し、少しずつ前へ進もうとしています。

また、体操の内村航平選手は、コロナ禍の9月22日に、今季初の主要競技会である全日本シニア選手権大会に「鉄棒」のみ出場しました。今回の成績はミスもあって6位でしたが、反省と同時に手応えもつかんだようです。内村選手と言えば、これまで体操で世界をリードしてきた第一人者ですが、31歳となり来夏の東京五輪を「競技人生最大の挑戦」と位置付け、「鉄棒」のスペシャリストとしての出場を目指すと言っています。二人に代表されるように、選手が苦しい練習に耐え、頑張れるのはどうしてでしょうか。それは、努力の先に自分の目標、夢があり、それをかなえようとしているからだだと思います。あきらめたり、逃げたりしたら夢や希望はかないません。五中生もぜひ、努力の先を目指して、苦手なことにも一生懸命取り組んでください。

さて、10月になり生徒会本部役員の改選の時期を迎えました。現在、会長候補に2名、副会長候補に4名、書記、庶務の役員候補に5名の皆さんが立候補し、積極的に選挙活動を行っています。

選挙公報を読むと、「ありがとうウィーク」にあるように、感謝の声が多い学校にしたい、人権を尊重する活動を続けたい、ルール違反がなく「あいさつ」のできる学校にしたい、五中の生徒でよかったと思える活気あふれる楽しい学校にしたい等、候補者の皆さんの強い意気込みを感じます。とても頼もしいですね。創立四十周年の記念の年、現生徒会役員さんのこれまでの活動に感謝し、新役員さんには、生徒会のよき伝統を引き継ぎ、さらに発展して欲しいと思います。

明るいあいさつ・みんなの笑顔 第五中学校区（二小・八小・十小・五中）

第五中学校体罰防止標語：体罰をしない、させない、見過ごさない 愛ある教育 チーム五中！